

2月の会期終了まで残りわずか！フィナーレに向けて注目プログラムが目白押し

## 「ジャポニスム 2018：響きあう魂」 1月の公式企画・最新情報のご紹介

2018年7月より約8か月にわたってパリを中心にフランスで開催している日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」は、会期終了まで残すところあと2か月となりました。今月も日本を代表する文化プログラムが多数実施されています。メディアの皆様におかれましては、引き続き貴媒体にて、このジャポニスム 2018 をご紹介下さいますよう、何卒宜しくお願いいたします。

### ●注目のプログラム

パリに輝き、パリに没したフジタの知られざる時期の作品を紹介

## 「藤田嗣治：生涯の作品（1886-1968）」展

藤田嗣治は若くしてパリに渡り、エコール・ド・パリの芸術家として高い評価を得ました。三度にわたるパリ滞在(1913-1931、1939-1940、1950-1968)中には、藤田にとって重要な出来事がいくつも起きています。個展の成功、フランスへの帰化、カトリックへの改宗などです。

本展では、藤田がパリに渡った1913年からパリを離れる1931年までの作品、中南米を旅し日本に戻り、東京を起点に日本各地や中国から東南アジアまで足を延ばした1930-40年代の作品、さらには戦後、終の棲家と定めることになるフランスへのオマージュとして制作された作品を紹介します。フランスで最も知られているのは最初のパリ滞在時に制作された作品ですが、1930-40年代の作品はこれまでほとんど紹介されることはありませんでした。60年に及ぶ藤田の創造活動を総括し、藤田にとって第二の故郷であるパリで日本とフランスの美術館から厳選された藤田の代表作を展示する、貴重な展覧会です。



藤田嗣治「自画像」1929年 東京国立近代美術館蔵  
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR,  
Tokyo. 2018 E3117



藤田嗣治「猫」1940年 東京国立近代美術館蔵  
©Fondation Foujita / ADAGP, Paris & JASPAR,  
Tokyo. 2018 E3117

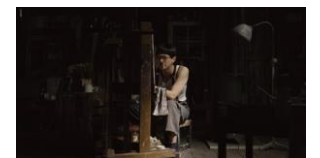
小栗康平監督『FOUJITA』をフランス初上映！

## 『FOUJITA』特別上映会

2019年1月から3月までパリ日本文化会館で開催される藤田嗣治展に合わせ、小栗康平監督による日仏合作映画『FOUJITA』（2015年）を上映します。

フランス・ジョルジュ・サドゥール賞を日本人として初めて受賞した『伽椰子のために』（1984年）や、カンヌ国際映画祭審査員特別グランプリ・国際批評家連盟賞ダブル受賞で話題になった『死の棘』（1990年）で知られる小栗康平監督が、10年ぶりに手がけた最新作『FOUJITA』。静謐な映像美溢れるこの日仏合作映画が、フランスにおいて初めて紹介されます。

展覧会と併せ、日仏の間に生きたフジタの未だ知られざる世界を紹介し、近代とは何か、改めて問いかけます。



©2015『FOUJITA』製作委員会

報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## ● 1月から始まるジャポニスム 2018 公式企画ラインナップ

### 「展覧会」

※各企画の内容は次頁以降も続きます。

タイトル	会期	会場
「藤田嗣治：生涯の作品（1886-1968）」展	1月16日（水）～ 3月16日（土）	パリ日本文化会館
「古都奈良の祈り」展	1月23日（水）～ 3月18日（月）	ギメ東洋美術館

### 「舞台公演」※ 2月実施

タイトル	会期	会場
能楽	2月6日（水）～ 10日（日）	シテ・ドラ・ミュージック

### 「映像」

タイトル	会期	会場
日本映画の100年 ②-2「日本映画再発見（知られざる傑作特集）」	1月～ 2月	シネマテーク・フランセーズ
KINOTAYO 現代日本映画祭	1月17日（木）～ 26日（土）	パリ日本文化会館
『FOUJITA』特別上映会	1月18日（金）～ 27日（日）	パリ日本文化会館、L'Arlequin

### 「生活文化他」

タイトル	会期	会場
日仏ダイアログ⑥ 日仏文学シンポジウム「日仏文学の今」	1月18日（金）	ホテル・ベッドフォード
「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ 日本食アトリエ <調理師学校・シェフ向け>	1月22日（火） 1月31日（木）	オクシターニ調理師職業リセ（トゥールーズ） アレクサンドル・デュマ調理師職業リセ（ストラズブル）
いけばな	1月30日（水）～ 2月2日（土）	パリ日本文化会館
柔道 ジャポニスム 2018 JITA-KYOEI PROJECT 展示：Japonismes 2018 JITA-KYOEI PROJECT 鏡開き 講演会、「極の形」デモンストレーション	1月15日（火）～ 26日（土） 1月19日（土）	パリ日本文化会館 アンステイテュ・デュ・柔道
「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ 日本のお酒試飲の夕べ	1月24日（木） 石川県 2月11日（月） 島根県 2月18日（月） 奈良県	Le Rouge et le Verre à Turin Virtus Cave « Soif d'ailleurs »

### 「展覧会」

奈良・興福寺の代表的仏像の展示をとおして、一千年以上の長きにわたって培われ・育まれてきた祈りの精神と美を紹介。

### 「古都奈良の祈り」展

「日本」のはじまりの地と言われている奈良には、ユーラシア大陸における東西文化交流を背景に持つ仏像が受け継がれてきました。奈良の社寺では長い祈りの歴史とともに、その伝統に根差した造形文化が育まれています。

本展では、名刹・興福寺で大切に守り伝えられてきた至宝のうち、「地藏菩薩立像」（重要文化財）と、「金剛力士立像（阿形・吽形）」（国宝）を厳選して展示します。普段は奈良を訪れなければ味わえない、眼前の仏像から放たれる美しさや迫力、その精神性の一端を伝える貴重な展示をとおして、シルクロードの東の終着点として日本文化の礎を築いた古都「奈良」の新たな魅力を紹介します。



（左） 国宝 金剛力士立像（吽形） 写真提供：興福寺  
（中央） 重要文化財 地藏菩薩立像 写真提供：興福寺、美術院  
（右） 国宝 金剛力士立像（阿形） 写真提供：興福寺

#### 報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## 「舞台公演」 ※ 2月実施

野村萬、梅若実、浅見真州ら現代一流の能楽師が本格的能舞台で日本文化の精髓である能楽を披露する公演です。

### 能楽

野村萬、梅若実、浅見真州ら現代一流の能楽師の出演により毎年東京の国立能楽堂で開催している「日経能楽鑑賞会」のパリ版ともいべき公演です。

能楽の原点として別格に扱われる『翁』に始まり、恋をめぐる怨念が渦巻く『葵上』、優艶な敗者・平清経の悲しみを描く『清経 恋之首取』、夫の留守を預かる妻の恋慕から絶望へ至る『砧』と、能の傑作が上演されます。

狂言では現役能楽師としては最高齢の一人である野村萬らによる『木六駄』、『二人袴』が上演されます。

屋根・柱・橋掛かり・鏡の間付きの本格的能舞台、能装束、構成などすべてにおいて、これまでの能楽海外公演ではなし得なかったレベルの公演がパリで実現します。

### お知らせ

本公演に出演する野村萬さん、梅若実さん、浅見真州さんの3名が、フランス共和国政府より芸術文化勲章を叙勲されることになりました。授与式は2019年2月6日～10日に開催されるパリ公演時を予定しています。



『木六駄』(シテ・野村萬) ©前島写真店



『清経』(シテ・梅若実) ©前島久男



『砧』(シテ・浅見真州) ©神田佳明

#### ■ 叙勲内容

野村萬さん：芸術文化勲章オフィシエを受章

梅若実さん、浅見真州さん：芸術文化勲章シュヴァリエを受章

#### ■ 芸術文化勲章について

フランス共和国文化省により1957年に創設された勲章で、芸術・文学の領域での創造、もしくはこれらのフランスや世界での普及に傑出した功績のあった人物、フランス文化の紹介者、普及の実務者や支援者が叙勲の対象となるものです。勲章にはコマンドゥール、オフィシエ、シュヴァリエの3段階があります。フランス文化省が推薦し、文化大臣が決定権をもつものです。日本ではこれまで川端康成さん、坂本龍一さん、松本零士さんなどが叙勲されています。

## 「映像」

日本映画の100年の歴史を119本の映画で紹介します。1920年代の作品から2018年の最新作まで、日仏の専門家が共に選ぶ珠玉のラインナップです。

### 日本映画の100年

#### ②-2「日本映画再発見（知られざる傑作特集）」

2018年11月から12月まで上映した第1セッション「4K修復で見直すクラシック映画傑作選」に次いで、2019年1月23日（水）からは第2セッション「知られざる傑作特集」がフランス映画文化の中心拠点シネマテーク・フランセーズで始まります。第2セッションでは、フランスではまだ知られていない名監督の作品と、よく知られている監督の知られざる傑作を、32本紹介します。巨匠・溝口健二監督をして「天才」と言わしめたにも関わらず日本でも上映機会の少ない隠れた巨匠・清水宏監督の『蜂の巣の子供たち』、『CURE』・『トウキョウソナタ』等で知られる黒沢清監督の初期の作品『地獄の警備員』など、既に数多くの日本映画の傑作を知っているコアなフランスの映画ファンをもうならせる、厳選されたラインナップをお届けします。

#### 報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

13 回目を迎える KINOTAYO 現代日本映画祭。「ジャポニスム 2018」では、例年にも増して魅力的なプログラムを紹介します。

## KINOTAYO 現代日本映画祭

フランス最大の日本映画祭として、2006 年の創設以来、多くの人が毎年楽しみに待ち望んでいる「KINOTAYO 現代日本映画祭」。フランスでの公開前の最新作を含め、幅広いジャンルの日本の現代映画を数多くフランスに紹介してきました。第 13 回映画祭は、「ジャポニスム 2018」の一環として、例年にも増して魅力的なプログラムをご用意します。



### 《生活文化他》

## 日仏ダイアログ⑥

### 日仏文学シンポジウム「日仏文学の今」

日本とフランス語圏でそれぞれ活躍中の女性作家たちを招き、それぞれの国における文学のあり方を比較しながら、現代社会が抱える問題を照らし出し、現代文化における文学の役割についての考察に繋がります。

総合ディレクターをパリ在住の作家・辻仁成さんが務め、登壇予定は、日本から林真理子さん、桐野夏生さん、角田光代さん、フランスからステファニー・ジャニコさん、カナダからナンシー・ヒューストンさんという豪華メンバーです。

日本とフランスには一万キロの距離があり、私たちの間には 160 年に及ぶ人的交流の友情がある。

私たちは地続きの隣国ではないが、長く文化的には隣国との関係を構築してきた。19 世紀にはフランスにおいてジャポニスム運動がはじまり、日本の近代にフランスの哲学や文学が大きな衝撃を持ち込んだ。

文学者たちはその長い距離と歴史という大河を挟みながら、お互いの岸辺からそれぞれの国を見つめてきたのである。

この長大な文学的な眼差しの一つの到達点としてここに集まった現代日仏の作家たちによるシンポジウムは 21 世紀の両国の文学の在り方を比較する上でも、また新たな友情の始まりとしても意味深きものとなるだろう。

日仏文学の間に流れる大河を思いながら、私は静かに作家たちの言葉に耳を傾けたい。

辻仁成

## 「日本の食と文化を学ぶ」シリーズ

### 日本食アトリエ <調理師学校・シェフ向け>

今後のフランスの美食界を背負って立つシェフの卵に、日本食文化の知識や技術を紹介して、今後のキャリアに生かしてもらおう企画「日本食アトリエ <調理師学校・シェフ向け>」の第 5 回は、トゥールーズにあるオクシターヌ調理師職業リセにて行います。今回は、金沢を代表する老舗料亭「つば甚」で腕を振るう川村浩司氏を特別講師としてお招きして、一流の加賀料理を生み出す熟練の調理技術を惜しみなく学生たちに披露します。

### 報道関係者からのお問い合わせ先：

(独) 国際交流基金ジャポニスム事務局 / ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央 (070-3190-3708)、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

日本のいけばなの5つの流派（池坊、一葉式いけばな、小原流、草月流、未生流）がパリに会い、作品展示やシンポジウム、ワークショップを通して、華道の真髄を紹介します。

## いけばな

四季折々の草花を愛で日々の彩とする日本伝統の文化、いけばなは、フランスでも多くの人々に愛好されています。

今回は、日本いけばな芸術協会といけばなインターナショナルの協力を得て、多種多様ないけばなの様式や技法を紹介します。パリ日本文化会館定例事業のいけばな教室・講座を「ジャポニスム2018」会期中も行いつつ、日本から各流派の家元をはじめとする専門家が渡仏し、展覧会、デモンストレーション・シンポジウム、ワークショップを行う特別週間を企画して、華道の奥深い世界を五感で体験する場を提供します。

フランスの参加者にとっては、花の美しさを観賞するだけでなく、日本文化の中で育まれてきた、自然を尊び、洞察し、あらゆる生命に美を見出そうとする考え方に触れられる機会となることでしょう。



世界の柔道大国である日本とフランスが、子どもから指導者まで、老若男女さまざまなレベルでの柔道交流を深めます。

## 柔道 ジャポニスム 2018 JITA-KYOEI PROJECT 展示 : Japonismes 2018 JITA-KYOEI PROJECT 鏡開き 講演会、「極みの形」デモンストレーション



世界の柔道大国として知られるフランスでは、柔道は他者への敬意や礼の精神が身につく教育的なスポーツとしても評価され、子どもから大人まで多くの人々が取り組んでいます。

この度は日本とフランスが、「ジャポニスム 2018 JITA-KYOEI PROJECT」(※) でタッグを組み、さまざまなレベルで柔道を通じた交流を深めます。

※「JITA-KYOEI PROJECT」とは

「JITA-KYOEI (自他共栄)」とは「その団体・社会を組織している各成員が、その他の成員と相互に融和協調して、共に生き栄えること」「人間と社会の進歩と発展に貢献すること」という意味で、講道館柔道の創始者、嘉納治五郎による教えの中で最も重要な言葉のひとつです。国際交流基金と講道館は、平成29年度より本格的な柔道交流事業「JITA-KYOEI PROJECT」を開始し、日本発祥で世界的スポーツとして発展した柔道を通じて、各国との交流を促進し、人的交流、技術指導、教材作成等により、交流強化、人材育成、ネットワーク構築の促進を目指しています。従来は主として東南アジアとの交流を推進してきましたが、2018年は「ジャポニスム2018」の機会を活用し、フランスとの交流にも注力しています。

### 展示 : Japonismes 2018 JITA-KYOEI PROJECT

本展示では、柔道と日本刀の知られざる関係に焦点を当てつつ、柔道の創始者・嘉納治五郎師範の言葉を通して柔道の精神世界を分かりやすく紹介します。最高位の称号「無鑑査」を持つ上林恒平刀匠による日本刀は必見です。

時期：2019年1月15日（火）～26日（土）

会場：パリ日本文化会館 地上階情報センター

### 鏡開き 講演会「極みの形」デモンストレーション

新年恒例のフランス柔道連盟の「鏡開き」。節目として心を引き締め、柔道の技術向上と安全を祈願します。今年は上村春樹・講道館長が新年の挨拶として講演を行うほか、講道館専門家による「極みの形」演武が奉納されます。

時期：2019年1月19日（土）

会場：アンステイテュ・デュ・柔道

※見学自由（無料、申込不要）

### 報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム2018 PR事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp

## 「日本の食と文化を楽しむ」シリーズ

### 日本のお酒試飲の夕べ

パリ市内のレストラン、カフェ、ワインバー等の協力を得、日本酒をはじめとする日本の「味わい」に触れて、楽しんでもらう機会をパリのみなさんに提供して、「ジャポニスム 2018」を広く盛り上げる参加型企画を準備しています。



#### 「日本のお酒試飲の夕べ」

パリの地元の人々が日々集うワインバーにおいて、日本の都道府県が自信を持って薦める日本酒（吟醸、大吟醸、純米等複数銘柄）を、地元産のおつまみ品とともに気軽に味わって頂く試飲イベント「日本のお酒試飲の夕べ」を6回にわたって開催しています。

海外における日本産酒の普及については、関係者・機関がそれぞれの強みを生かして様々な取組みを展開しているところですが、今回はこれまで特に日本との接点が無かったり、日本酒になじみのなかった方も多く参加することを念頭に、プロのフランス人ソムリエによる日本酒に関するレクチャーを組み込んで、日本酒の飲み方・味わい方から丁寧に説明します。

参加するのは、公募で選定した新潟県、佐賀県、広島県、石川県、奈良県、島根県の6県で、11月に実施された第1弾では新潟県、佐賀県、広島県、1月～2月に実施する第2弾では石川県、奈良県、島根県を取り上げます。

**第4夜 石川県** 1月24日（木）18時～20時 Le Rouge et le Verre à Turin（28 rue de Turin 75008 Paris）

**第5夜 島根県** 2月11日（月）18時～20時 Virtus（29 rue Cotte 75012 Paris）

**第6夜 奈良県** 2月18日（月）18時～20時 Cave « Soif d'ailleurs » Verre à Turin（38 rue Pastourelle 75003 Paris）

## ●開催中の公式企画ラインナップ

### ◀展覧会▶

「京都の宝—琳派300年の創造」展

期間：～2019年1月27日（日）まで

会場：パリ市立テルヌスキ美術館

ルーブル美術館ピラミッド内 特別展示 名和晃平 彫刻作品 “Throne”

期間：～2019年2月18日（月）まで

会場：ルーブル美術館・ピラミッド内

「ジャポニスムの150年」展

期間：～2019年3月3日（日）まで

会場：装飾美術館

【特別企画】パリ東京文化タンDEM 2018 アール・ブリュット ジャポネⅡ

期間：～2019年3月10日（日）まで

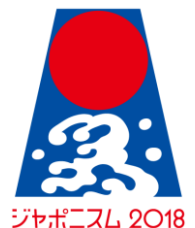
会場：アル・サン・ピエール美術館

### 「ジャポニスム 2018：響きあう魂」とは

日仏友好160年にあたる2018年より、両国政府間合意に基づき、芸術の都フランス・パリを中心に、大規模な日本文化・芸術の祭典「ジャポニスム 2018：響きあう魂」を開催中。パリ内外の100近くの会場を舞台に、約8か月間にわたり、美術展、舞台公演、映画、その他食や工芸など日本人の日常生活により密着した文化までを含め、さまざまな日本の芸術と文化を、古典から現代まで幅広く紹介します。会期を通じ、約70の公式企画を実施。東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を前に、日本文化の多様な魅力をパリに、またパリを通して世界に向けて伝えます。

会期：2018年7月～2019年2月 事務局：独立行政法人国際交流基金

公式ウェブサイト：<https://japonismes.org/>



ジャポニスム 2018

### 報道関係者からのお問い合わせ先：

（独）国際交流基金ジャポニスム事務局/ジャポニスム 2018 PR 事務局 株式会社サニーサイドアップ内

担当：浅野憲央（070-3190-3708）、川合遼星、松瀬恵子

住所：〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-23-5 JPR 千駄ヶ谷ビル

TEL：03-6894-3201 FAX：03-5413-3050 E-mail：japonismes2018@ssu.co.jp